

こちら 道立羽幌病院 です

小児科 須貝先生のお話し

「せき (2)」



前回、「せき」の起こる場所を「鼻」、「のど」、「気管支」に分けました。

「のど」のせきの特徴は、乾いた空せきでのががいらいらする感じがあります。これに湿ったせき加わることもありますが、この場合は「鼻」と「のど」が同時に炎症を起こしているかもしれません。

小さいお子さんの場合はこの両方がいっぺんに感染することが少なくないからです。ただ、一つだけ注意を要するものがあります。それはクループという喉頭（気管の入り口）の炎症です。

せきに加え、発熱があり、急に声かれや、声が出にくいなどの症状が出ます。さらに進むと喉頭が強く腫れて、気管をふさいで窒息します。

子どもがものを飲めず、よだれを垂らし、血の気を失ってきたときは気道が詰まった徴候です。この場合は一刻の猶予もありません。（幸いにもこのような事態まで進むことはめったにありません）

「のど」のせきの場合も、家庭では前回ご紹介した対処法（体の姿勢を変える、蒸気を吸わせる）でよいと思います。

なお、余談ですが、重症のクループになるお子さんの家庭の多くに喫煙者がいる、ということが分かっています。

インフルエンザになるお子さんの場合もタバコの影響を受けることが報告されています。禁煙は感染を予防する最も有効な手段の一つです。

お子さんの健康を願う方はすぐにタバコを止めましょう。